

## 医療田園都市構想策定の背景

### 《ファルマバレープロジェクト》

2002年静岡がんセンターの開院を契機に、「世界一の健康長寿県の形成」を基本理念とし、「健康増進・疾病克服」と「県民の経済基盤の確立」を両輪として開始した。現在は第4次戦略計画に基づき推進している。

- ◎ 医療現場からの発想や要望に応える研究開発を中心に、多くの新製品・新技術を生み出す
- ◎ 質の高い医療人材や医療健康産業を牽引する産業人材の育成にも貢献

静岡県東部を中心に高付加価値産業が集積し、質の高い医療と癒しを提供する「医療城下町」を形成



### プロジェクト20年の主な成果

製品開発件数  
162件

地域企業新規参入  
48社

医用機器開発中核人材養成講座  
109人  
(うち責任者資格要件取得 53人)

<静岡がんセンター>  
雇用 2,500人  
<ファルマバレーセンター>  
雇用 340人  
生産金額 300億円

総合特区区域拡大  
(山梨県7市町)

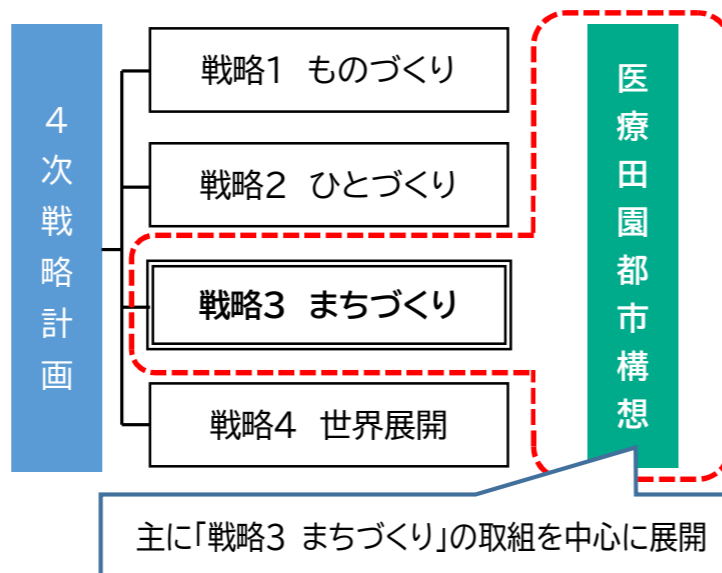
- 医療機関を中心とした高付加価値産業の集積
- 質の高い医療、癒しの提供

「医療城下町」の形成

## ファルマバレープロジェクト第4次戦略計画との関係性

### 《医療田園都市構想の位置付け》

「医療城下町」は、「患者」・「企業」を中心に据えてきたが、「医療田園都市構想」の中心は「住民」とし、ファルマバレープロジェクト第4次戦略計画の「戦略3 まちづくり」の取組を強化するための政策として位置付ける。



## 医療田園都市構想の全体像

### 《基本理念》～超高齢社会においても人口増加・地域経済活性化を実現する理想郷モデルの形成～

静岡がんセンターとファルマバレープロジェクトの成果である「医療城下町」を基盤に、**住民に豊かな暮らしと充実した医療・福祉・介護を提供し、地域企業強化、企業誘致、移住促進により、地域経済を発展**させ、国際的な交流の舞台として世界にその姿を示す「**超高齢社会の理想郷**」を目指す。

### 戦略1 「医療・福祉・介護による安心が実感できるまち」の実現

- 戦術1 最先端のがん医療環境の整備
- 戦術2 「生まれてよし 老いてよし」の医療・福祉・介護機能の充実
- 戦術3 大学院大学計画の推進による高度医療人材の集積

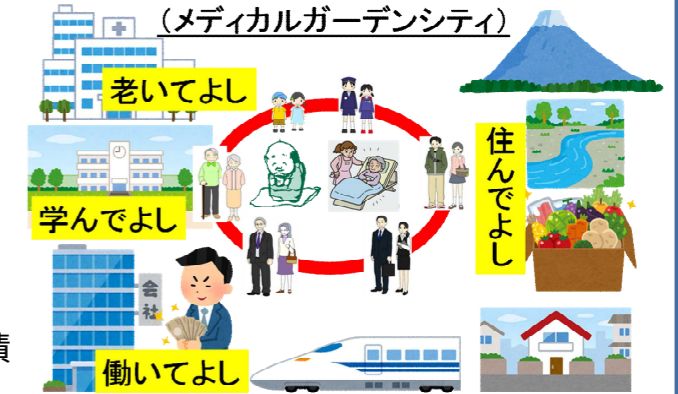
### 戦略2 「田園のゆとりが味わえるまち」の実現

- 戦術1 「住んでよし 訪れてよし」「生んでよし 育ててよし」の自然環境・住環境の整備
- 戦術2 豊かさを実感できる生活機能の充実
- 戦術3 食を中心とするヘルスケア対策の推進

### 戦略3 「都市の活力が生きるまち」の実現

- 戦術1 高収入が得られる「働いてよし」の産業集積
- 戦術2 首都圏へ通える交通インフラの強化
- 戦術3 「学んでよし」の国際レベルの教育環境の充実

### 医療田園都市のイメージ



### 医療田園都市構想実現のための基本的事項

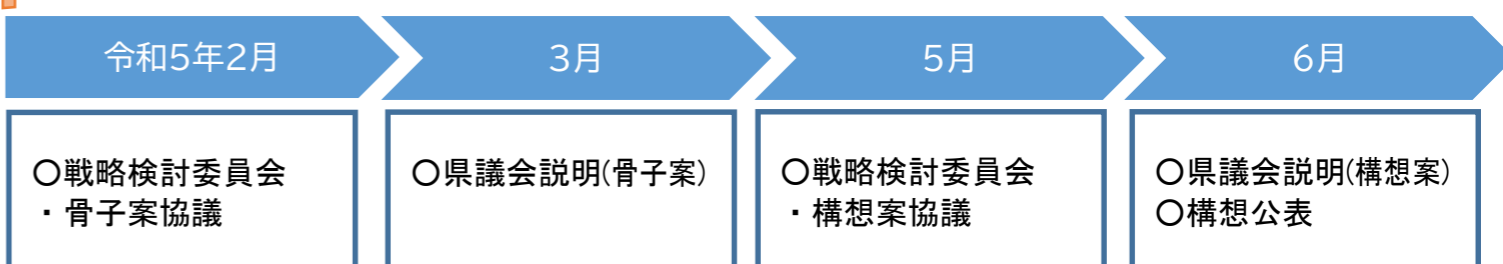
#### 《まちづくりの基盤》

- ◎ 企業誘致及び企業の成長支援
- ◎ 社会全体の高度デジタル化とデジタル技術の活用・普及
- ◎ 健康長寿・自立支援プロジェクトの推進

#### 《まちづくりの展開》

- ◎ 主体である市町や民間企業との協働

## 医療田園都市構想の策定スケジュール



## 戦略1 「医療・福祉・介護による安心が実感できるまち」の実現

### 戦術1 最先端のがん医療環境の整備

- ・ 静岡がんセンターでは、最先端がん医療の提供し続けるとともに、県民のためのがん対策の中核機能としての役割を果たす

### 戦術2 「生まれてよし 老いてよし」の医療・福祉・介護機能の充実

- ◎ 身近な生活空間の中に、医療・福祉・介護サービスが集積した「まち」の創出
  - ・ 県東部地域をモデルに身近な生活空間の中に、医療・福祉・介護などの機能がコンパクトに集積したまちづくり
- ◎ 最先端の医療環境及び予防、検診体制の整備
  - ・ モデル地域内の市町において、受診率を向上させるとともに、高度な検診が実施できる体制の整備

### 戦術3 大学院大学計画の推進による高度医療人材の集積

- ◎ 静岡がんセンターを基盤とした医科系大学院大学の設置検討
  - ・ 医科系の博士課程を有する大学院大学設置に向けた検討 等

## 戦略2 「田園のゆとりが味わえるまち」の実現

### 戦術1 「住んでよし 訪れてよし」「生んでよし 育ててよし」の自然環境・住環境の整備

- ◎ 豊かな自然・文化・芸術を生かす地域づくりの推進
  - ・ 伊豆地域の豊かな自然、温泉及び食材など観光資源を組み合わせ、特色ある健康サービスや癒しを提供する「かかりつけ湯」の推進 等
  - ・ 県や市町が地域特性を活かし、住み心地に配慮した住環境や高度な教育環境、幅広い世代に訴求する文化環境の整備 等
- ◎ 洗練された住環境の提供による移住促進策の強化
  - ・ 「自然環境の良さ」「子育てしやすい」といった強みをモデル地域全体のイメージとする広報展開
- ◎ 「自立のための3歩の住まい」を活用した、高齢者の住環境の充実
  - ・ モデルルームをもとに、サービス付き高齢者向け住宅などへの実装化 等

### 戦術2 豊かさを実現できる生活機能の充実

- ◎ 高齢者に優しい多機能な商業・サービス施設をコンパクトに集積したまちづくり
  - ・ 地域のモデルとなる高齢者に優しい店舗の誘致等について、市町や関連団体等と協力して推進
- ◎ 「健康長寿・自立支援プロジェクト」の推進による、医療・介護製品等の研究開発
  - ・ 医療機器、介護福祉関連製品等の研究開発や地域企業の参入拡大を支援 等
- ◎ 超高齢社会に便利なモビリティ開発・モビリティサービスの創出
  - ・ 次世代モビリティ分野における技術開発、サービス開発に取り組む県内企業への支援 等

### 戦術3 食を中心とするヘルスケア対策の推進

- ◎ 高齢者向けヘルスケア対策の研究推進と関連製品・サービスの開発
  - ・ FHCaOI や AOI、MaOI など各種先端産業創出プロジェクトとの連携強化 等

## 戦略3 「都市の活力が生きるまち」の実現

### 戦術1 高収入が得られる「働いてよし」の産業集積

- ◎ 高付加価値産業の集積
  - ・ ふじのくに先端医療総合特区の活用、ファルマバレーセンターの機能強化等により、研究開発から事業化、販路開拓までの支援と高い安全性と信頼性を確保した製品づくりを通じた更なる産業集積の促進 等
  - ・ 富士工業技術支援センターや静岡大学、富士市など産学官の連携によるCNF（セルロースナノファイバー）関連産業の創出
- ◎ 地域の特性や強みを活かした企業誘致
  - ・ 立地優遇措置の継続・強化など、国内外から高度な生産技術や研究機能を有する企業の誘致を加速 等
- ◎ 高度人材の確保・育成
  - ・ 国内外の人材と県内企業との協働を進めるビジネスマッチングの開催 等
  - ・ バイオデザインセミナー、医用機器開発人材養成講座などを通じ、医療健康産業分野の高度人材を育成
- ◎ 大学との協働による地域企業活性化策の推進
  - ・ 静岡県立大学との医薬品・栄養補助食品開発や静岡社会健康医学大学院大学の持つヘルスケアデータの活用など、高度研究機関と地域企業による研究開発の推進 等

### 戦術2 首都圏へ通える交通インフラの強化

- ・ 鉄道をはじめとした公共交通機関の利便性の向上

### 戦術3 「学んでよし」の国際レベルの教育環境の充実

- ・ 医療田園都市の特性を併せ持ち、高水準で一貫した教育機関の受入体制を構築

## 医療田園都市構想を先行して進めるモデル地域

構想を推進するモデル地域を定め、市町と一体となって取組を推進

- ◎ 第1次対象地域：ふじのくに先端医療総合特区区域の県内8市4町

沼津市、三島市、富士宮市、富士市、御殿場市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、函南町、清水町、長泉町、小山町

